

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～
vol. 30

2020年5月28日

＜自立支援プログラム＞の取り組みについて

ピピオ子どもセンターでは、入居した子どもたちが社会に巣立っていくために必要な力を身につけてもらいたいと考え、2018年度から公益財団法人マツダ財団様のご支援のもと、自立支援プログラムを実施しております。今日は、その取り組みについて簡単にご紹介します。

自立支援プログラムは、子どもたちが「ピピオの家」や「はばたけ荘」から退居した後、社会生活を送る際に生じる様々な問題に対して、対応できるように色々な学びをしてもらうものです。実際に、次のようなプログラムを提供しました。

「ピピオの家」に入居中の子どもには、日常生活の中での①自炊訓練や②生活訓練（ATMでの機械操作）のほか、③退居予定の子どもに対するマネー講座を取り組んでもらいました。また、「はばたけ荘」に入居中の子どもには、①アンガーマネジメント、②喫煙・薬物問題、③性教育、④消費者教育、⑤インターネット教育、⑥ビジネスマナーといった講座を受けてもらいました。「ピピオの家」に入居中の子どもたちは、緊急避難としてまずは落ち着いて生活してもらうことが大切であることや、短期の入居もあるため継続的に講座を受けてもらうことは難しいため、「はばたけ荘」の子どもたちが中心となっています。

企画については、理事や事務局員がアイデアを出し、その分野の専門家の方をお願いして実施をしていきました。私も、喫煙・薬物問題の企画を担当させてもらいましたので、少し詳細を説明い

たします。喫煙・薬物問題は、広島県薬剤師会にお願いしたところ、平本敦大先生（当時常務理事）が、講師を引き受けてくださり、映像を使いながら、喫煙による問題点や薬物を使用することによる問題点について、大変分かりやすく教えていただきました。参加していた子どもたちも、眠ったりすることもなく真剣に先生の方を向いて話を聞き、時折先生から質問をされたりすることに答えながら、しっかりと学ぶことが出来たようでした。

虐待などで居場所のない子どもたちは、一般的には学校や家庭で教えられることについても学ぶ機会がないまま社会に出て行かなくてはいけないことが、多くあります。誰しも初めてのことや知らないことについては、上手くいかず、不安で、挫けそうになってしまいます。「ピピオの家」や「はばたけ荘」を巣立っていく子どもたちが、少しでも社会で生活していきやすくなるように、これからも色々取り組みでいきたいと思えます。また、この場をお借りして、改めて各プログラムにご協力いただきました先生方や、ご支援をいただきました公益財団法人マツダ財団に感謝を申し上げます。

弁護士 砂本 啓介

日頃より、ピピオ子どもセンターの活動にご理解を賜りまして、誠にありがとうございます。

2010年4月に広島弁護士会主催でこどもの日記念シンポジウム「子どものシェルターを作ろう！」を開催し、それを契機として子どもシェルター「ピピオの家」が設立されました。その後毎年こどもの日記念シンポジウムを開催し、虐待や少年の更生、デートDVなど子どもに関わる様々な問題を、オリジナル演劇「はばたけピピオ！」の上演を通して、皆さまと一緒に考えてきました。このシンポジウムでは、毎年会員の方をはじめ来場された方から励ましの声を多くいただいています。「ピピオの家」設立の原点であり、当法人を運営していく原動力でもありました。今年のシンポジウムに向けて昨年からは脚本作りを始め、1月からは配役を決めて練習をしていました。ところが、COVID-19の感染拡大により、本当に残念ですが今年のシンポジウムは中止となってしまいました。

来年は子どもシェルター「ピピオの家」が開設されてから10年の節目となります。来年こそは、こどもの日記念シンポジウム「はばたけ！ピピオ」で皆さまとお会いできることを楽しみにしています。

2020年は穏やかに新年を迎えましたが、COVID-19の猛威で私たちの生活は一変してしまいました。人と会ったり、話したりすることが大きく制約されました。人は一人では生きていけず、人との触れあいに支えられて生きていられるのだと改めて感じます。

ピピオに入居する子どもたちの多くは、人との触れあいの中で傷を負っています。生育過程の重要な時期に傷を負い、長期間傷つき続けている子どもたちもいます。子どもたちがピピオに入居している期間は限られていますが、人との触れあいの温かさや楽しさを感じられる場所にしたいと考えております。

今後とも皆さまの温かいご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

理事 那須 寛



2020年度のボランティアスタッフ養成講座に中止について

当センターでは、子どもシェルター「ピピオの家」と自立援助ホーム「はばたけ荘」の運営にあたり、多数のボランティアスタッフの皆さまにご協力をいただいています。

例年、この時期にボランティアスタッフを募集し、応募される方には6月から7月にかけて実施するボランティアスタッフ講座を受講していただくこととしており、今年度もそのプログラムを作成しておりましたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から、やむなく中止することといたしました。

当面は、現在のボランティアスタッフの皆さまのご協力を得ながら、運営を進めていきたいと考えております。

次回が開催が決まりましたら、本会報、ホームページ、新聞紙上などでお知らせしますので、よろしくお願いいたします。

2019年度の「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者の概要

		ピピオの家		はばたけ荘	
入居者数		6名（女子）		6名（男子）	
2019年度 中の新規 入居者	入居時の年齢	17歳	4名	15歳	1名
		18歳	2名	16歳	1名
2019年度 中の退居 者	入居期間	0.5か月以内	3名	1年7か月	1名
		0.5か月～1か月	1名		
		1か月～2か月	1名		
		3か月～4か月	1名		
	退居後の行き先	親のもとへ	1名	病院	1名
自立援助ホーム		2名			
グループホーム		1名			
一時保護所		2名			

スタッフ通信

「はばたけ荘」のスタッフのSです。

私がスタッフとして「はばたけ荘」にやって来てから、この春で三年目を迎えました。「はばたけ荘」に携わるスタッフ、ボランティアさん、弁護士の先生方はもちろんのこと、他ならぬ「子どもたち」から学ぶものが、私の今の大きな糧となっていると痛感しております。

「はばたけ荘」は”自立援助ホーム”ではありますが、”自立援助”と一言で言ってもなかなか難しいものです。自立の為の道の提示は出来ても、その道を歩くのは子ども自身。一人で歩けずとも、大人の手を借りて歩き始める事が出来ればと思うのですが、手を差し伸べても握ってくれない子が多いのも事実です。凄惨だった過去の経緯や家庭環境を考えれば、手を差し伸べる大人を信用出来ないのは無理もない事なのかもしれません。表面上のコミュニケーションは出来ても、心の奥底は鉄の扉で閉ざされ、本音は語らない子もいます。

そんな事を思いながらも、私がスタッフとして出来る子どもたちへの最大限のアプローチは「安心して過ごせる場所」を提供することだと感じています。良くも悪くも、荘での生活に慣れてくると必ず出て来る「わがまま」は、子どもに生まれた「安心感」の指標なのかもしれません。ですから「わがまま」が増えるたびに、ちょっとだけ複雑な気持ちにもなります。

時には、そんな「わがまま」とは裏腹に、子どもの凄惨だった家庭環境が垣間見える瞬間も多々あります。ある日のこと、入居中のA君が「母親から電話がかかってきた」といってスマホを私の目の前に出して、スピーカーから母親との会話を聞かせてくれたことがありました。母親の口から出るのは罵詈雑言の数々。それに対して「ごめんなさい」と返すだけのA君。私ですら、あの時の母親の発言や声色までもが鮮明に脳裏に焼き付いているのですから、その言葉を言われたA君はどうでしょうか。

「はばたけ荘」には様々な環境で育った子どもが集まります。もちろん年頃の子ですから、全員が仲良しというわけにもいきませんし、小さな事で揉めたり、時にぶつかることもあります。でも何故か、不思議と2～3ヵ月に一度くらい皆がリビングに集まって笑っている瞬間というのがあるのです。ほんの5分、10分くらいの時間ですが、その一瞬が、私の一番の喜びでもあります。

「はばたけ荘」で過ごした時間が、少しでも未来の糧となれるように。転んだとしても、立ち上がる為の”手すり”が「はばたけ荘」という環境であって欲しいと日々、願っています。

共同募金・社会課題解決プロジェクトへのご協力ありがとうございました

ひなぼと vol.29 号でご案内しました令和2年1月から3月末日までに行われた広島県共同募金会による社会課題解決プロジェクトに対し、多数の方々にご協力頂きました。99 件もの方々(個人・団体・有志等)から募金を頂戴し、期間中の合計募金額は、101万7926円となり、広島県共同募金会を通じて、131万7926円の交付金を頂くことになりました。本年も、当センターとして、募金額の合計が100万円を超えました。

今年は、新型コロナウイルスの影響により3月に予定をしておりました街頭募金を中止せざる

をえない状況となりましたが、それにもかかわらず、多くの募金をいただいたことから、市民の方のピピオの活動に対する大きな期待を感じております。

この募金は、「ピピオの家」、「はばたけ荘」に入居する子どもたちの自立に向け、有効に使わせていただきます。この場をお借りして、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

弁護士 川崎 浩介

ピピオ掲示板

寄付等のご協力ありがとうございました

高橋様、国際ソロプチミスト広島-もみじ様、平田様、小武家様などから寄付金、生活用品等を頂いております。日々子どもたちの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。
この場で御礼申し上げます。

生活用品の募集について

ピピオの家・はばたけ荘から一人暮らしを始める子どもたちへの生活用品の提供についてご協力をいただき、ありがとうございます。

現在、次の家電品・家具を募集しています。(家電品は製造から3年以内でお願いします。)

- ・冷蔵庫 (高さ110cmくらいまでのもの)
- ・洗濯機
- ・組立式のベッド

ご寄付でいただけるものがあれば、事務局までお知らせください。

事務局雑記

自粛要請の中、はばたけ荘でも仕事が休みになって可愛そうな子もいました。それでも、スマホがあればお籠り生活もあまり苦にならなかったようです。私も通勤をバスから車に替えたほか、昼食も弁当、生活のための買物以外は外出せずという小さな生活にすっかり慣れてしまいました。意識だけは縮まらないよう気を付けていきたいですね。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル 505号
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659
ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>